

〔マツバラ科〕

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A 類 全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類

〔和名〕 マツバラ 〔学名〕 *Psilotum nudum* (L.) Beau.

〔摘要〕 本州、伊豆諸島、四国、九州、屋久島・種子島、琉球、小笠原。国外では東アジア～東南アジア、南アジア、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア。亜熱帯から暖温帯にかけて生育する。暖地では樹幹などに着生するが、本県では秩父地域の岩壁の割れ目に少数個体が生育する。

〔形態の特徴〕 葉と根を欠く原始的な植物である。茎は

緑色無毛で、二分分岐を繰り返す。分岐面は一回毎に90° ずつ変化し、植物体は立体的になる。古くから園芸植物として多数の品種が作られている。胞子は二面体型。

〔生活形〕 常緑の多年草で着生植物。

〔減少の要因〕 園芸採取。

〔特記事項〕 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。

〔ヒカゲノカズラ科〕

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類 全国カテゴリ

〔和名〕 アスヒカズラ 〔学名〕 *Lycopodium complanatum* L.

〔摘要〕 北海道、本州、四国、九州、屋久島・種子島。国外では北アジア、東アジア、ヨーロッパ、北アメリカ。中間温帯から冷温帯に広く分布し、向陽地に生じる。本県では秩父山地の高所に見られる。

〔形態の特徴〕 匍匐茎は地中または地表を長くはい、疎らに分岐する。直立茎は高さ10～30cmで斜上または直立し、扇状に分岐することが多い。葉は表面は鮮緑色

で裏面は淡緑色をなし、4列に並ぶ。胞子嚢穂は1～5個つく。胞子は四面体型で、晩夏～秋に熟す。和名は小枝がアスナロの小枝に似ることによる。

〔生活形〕 常緑の多年草で半地中植物。

〔減少の要因〕 不明。

〔特記事項〕 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。

〔ヒカゲノカズラ科〕

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A 類 全国カテゴリ 絶滅危惧 I B 類

〔和名〕 スギラン 〔学名〕 *Lycopodium cryptomerinum* Maxim.

〔摘要〕 北海道、本州、四国、九州、屋久島・種子島。国外では東アジア、インド。中間温帯に分布し、多くは樹上に着生するがときに岩上にややまれに生じる。本県では秩父山地にまれに見られる。

〔形態の特徴〕 茎は1～3回ほど分岐し斜上するが、大型のものでは上部は反転して下垂することがある。線

状披針形～狭被針形の葉が開出または斜上して茎に密生し、長さ1～2cmで、中央部が最も長く2mm以内である。胞子嚢穂はつくらない。

〔生活形〕 常緑の多年草で着生植物。

〔減少の要因〕 園芸採取。

〔特記事項〕 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。

〔ヒカゲノカズラ科〕

埼玉カテゴリ 絶滅 全国カテゴリ

〔和名〕 ヤチスギラン 〔学名〕 *Lycopodium inundatum* L.

〔摘要〕 北海道、本州（近畿以北）。国外では北半球の温帯。寒地、高地の湿地に生育する。

〔形態の特徴〕 匍匐茎は湿地の地表をはい、疎らに分岐し、冬には匍匐茎の先端部を除いてほとんどの部分が枯死する。胞子嚢穂は直立茎の頂端部に1～2個つく。

胞子は四面体型で、夏に熟す。

〔生活形〕 多年草で地表植物。

〔減少の要因〕 情報不足。

〔特記事項〕 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。その後確かな記録もなく、絶滅したものと思われる。

〔ヒカゲノカズラ科〕

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B 類 全国カテゴリ

〔和名〕 マンネンズギ 〔学名〕 *Lycopodium obscurum* L.

〔摘要〕 沖縄を除く日本各地の温帯を中心に広く分布し、向陽地の地上に生じ、岩上にも生じる。本県では奥秩父の山地にややまれに見られる。

〔形態の特徴〕 茎の主軸は地中を長くはい、疎らに分岐する。側枝は直立茎となり地上に伸び、上半部で多数分岐して高さ10～30cmの樹木状になる。線形の小さな

葉を密生し、枝の先端に胞子嚢穂を多数つける。胞子は四面体型で、晩夏～秋に熟す。

〔生活形〕 常緑の多年草で半地中植物。

〔減少の要因〕 森林伐採、踏みつけ。

〔特記事項〕 旧版植物誌には秩父・比企・入間郡市に記録がある。

維管束植物

蕨類

藻類

地衣類

菌類